

## アイヌの人たちの歴史・文化

## 明治以降の歴史

### クナシリ・メナシの戦いの後

クナシリ・メナシの戦いの後、幕府は、ロシアの南下をおそれ、蝦夷地を直轄としました。

### アイヌの人たちの日本への統合と北海道の開拓

1869年(明治2年)政府は、蝦夷地を官有地(国有地)とし、名前も「北海道」と改称しました。また、北海道の開拓を進めるために開拓使を設置しました。本州方面などからの移民を奨励し、地券(土地所有権を証明した証券)を発行して、和人に土地を次々と払い下げました。アイヌの人たちの主食であったシカやサケは、捕獲を禁止され、アイヌの人たちの生活は、困窮していきました。

1871年(明治4年)政府は、戸籍法を制定し、アイヌの人たちを平民に編入するとともに、和人的な姓名や、日本語の使用を強制するなど、和風化を強制しました。



マレク(突き鉤)を使っているサケ漁

### 開拓の本格化と「北海道旧土人保護法の制定」

1878年(明治11年)にはアイヌの人たちを「旧土人」という名称に統一しました。

1886年(明治19年)北海道庁が設置され、北海道の開拓がさらに進められました。道庁は、土地の民間への引き渡しと、開拓を更に進めました。

1899年(明治32年)「北海道旧土人保護法」が制定されました。

アイヌの人たちは、狩猟・採集が主な生業でしたが、アイヌの人たちに、農業のための土地を付与して、農業を奨励することをはじめ、医療、生活扶助、教育など保護政策を柱にこの法律が施行され、和人への同化が進められました。

### 戦後の政治・社会

1946年(昭21年)社団法人北海道アイヌ協会が設立されました。

この協会は、「アイヌ民族の向上発展、福利厚生を図る」ことを主な目的としました。このころ、政府は、不在地主(所有農地の所在地に居住していない地主)から土地を取り上げて小作農に安く売り渡す「農地改革」を進めていました。「北海道旧土人保護法」で与えられていた土地のかなりの部分が取り上げられるアイヌの人たちもいました。

1961年(昭36年)社団法人北海道アイヌ協会が社団法人北海道ウタリ協会に改称しました。

1997年(平9年)「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統などに関する知識の普及及び啓発に関する法律」が成立、施行されました。これにより「北海道旧土人保護法」は同時に廃止されました。

この法律に基づいてさまざまな事業が行われ、アイヌ語や古式舞踊などの伝統文化を学んだり、発表する機会やアイヌの人たち自身が語り部として、歴史や文化を伝えたりする機会が増えました。また、アイヌの人たちの歴史や文化等に対する一般社会の関心も高まっています。

【出典】『アイヌの歴史と文化 1』 榎森 進 編者 アイヌの歴史と文化刊行促進協議会  
『アイヌ民族の歴史と文化 教育指導の手引』 田端宏、桑原真人=監修 山川出版社  
『アイヌの人たちとともに - その歴史と文化 - 』 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構

## アイヌ語 豆知識

今回は、アイヌ語で数を表す言葉の一例を紹介します。

1 = シネ sine    2 = トウ tu    3 = レ re    4 = イネ ine    5 = アシクネ asik    6 = イワン iwan  
7 = アラワン arwan    8 = トペサンペ tupesan-pe    9 = シネペサン sinepesan  
10 = ワン wan    100 = アシクネホツ asikne-hot    人の数え方は違います。

【出典】『萱野 茂のアイヌ語辞典』 萱野 茂 著 三省堂

後志管内の各市町村の小学校社会科副読本では、「ユーカラ」や「熊送り」などのアイヌの人たちが伝えてきた文化や、アイヌ語を起源とした地名などについての記述が取り上げられています。蘭越町立蘭越小学校では、第4学年の社会科年間指導計画に副読本を活用した学習を位置付け、調べ学習や調べたことを発表する活動を実施しています。

## 第4学年社会科年間指導計画

10月	1 むかしのくらし (7)	昔の人のくらしについて、郷土資料館の見学や地域の人へのインタビューを通して調べ、昔の人の思いや願いを考える。
	2 まちをひらく (8)	昔と今の違いについて調べる。 ・アイヌの人たちのくらし ・最初に蘭越に開拓に入ってきた人たちのくらし ・開墾の様子 ・道や鉄道の様子 ・戦争のあったころの様子
11月	発表会をしよう (1)	保護者や地域の方を招いて、発表会を実施する。

第3・4学年社会科学習帳「らんこしの町」を使って、学習を進めます。(ワークシート形式の副読本なので「学習帳」としてしています)

## 第3・4学年社会科学習帳「らんこしの町」から一部抜粋

## 【アイヌの人々】

北海道には、古くからアイヌの人々が住んでいました。

アイヌの人々は、昔は海・山・川の動植物を食べ物にしなが、自然の中で豊かなくらしをしていました。アイヌの人々は、音楽・お祭り・ふくそうのもようなどにすばらしい文化をもっており、今でも北海道の各地で受けつがれています。

また、私たちが今使っている地名の多くが、アイヌの人々の言葉からできたものです。

## - アイヌ語の地名 -

北海道に多い地名

～ベツ＝大きな川      ～ナイ＝小さな川

蘭越にかんけいのある地名(一部)

・いそや＝「イショ・ヤ」＝岩の多い海岸

・しりべつ＝「シリ・ベツ」＝みはてぬ川

・らんこし＝「ラン・クシ」＝かつらの木の多いところ

・湯里<sup>ゆのさと</sup>＝湯山別<sup>ゆさんべつ</sup>＝「ユ・サン・ベツ」＝おんせん<sup>おんせん</sup>の山

ほかにも、アイヌ語が元になった地名がないか、調べてみましょう。

## アイヌの人たちの歴史・文化等に関する関連施設の紹介

	住所	電話番号	ホームページアドレス	特徴
北海道開拓記念館	札幌市厚別区厚別町小野幌53-2	011-898-0456	<a href="http://www.hmh.pref.hokkaido.jp/">http://www.hmh.pref.hokkaido.jp/</a>	常設展示室で、アイヌ文化の成立から現代までの歴史的な変遷をわかりやすく展示し、解説しているほか、ゴザ編みや着物を着る体験などの体験学習やアイヌ語講座を開催しています。
サッポロピリカコタン	札幌市南区小金湯27	011-596-5961		展示室内の展示物にさわってみることができます。ムックリ製作やアイヌ文様刺繍体験等の各種体験学習ができます。